

●
コルサコフ

コルサコフ ポートガイド

Korsakov Port Guide

シャトルバスの運行

未定

帰船時間（自由行動の方々）

未定

テンドーボートの運航

あり

船舶代理店

お問い合わせください



伝統の衣装で着飾った女性たち

北海道のさらに北に細長く浮かぶ島・サハリン。その南部にある、サハリン島最大の不凍港がコルサコフです。

もともとはアイヌが暮らすクシュンコタンという部落でしたが、1679年に松前藩の出先機関が置かれてから日本人による漁場開拓が進んでいきました。

18世紀になってロシア人がやってくるようになり、やがてクシュンコタンには監獄が設けられ、軍人や流刑民が送り込まれます。そして当時の東シベリア総督の名にちなんでコルサコフと呼ばれるようになります。

1890年には流刑地だったサハリン島のルポルタージュ取材にやってきた作家チェーホフがコルサコフに滞在しています。

日露戦争（1904～05年）後、サハリン島南部は南樺太という日本領となり、コルサコフも大泊と改称され、しばらく樺太庁が置かれていました。

そして稚内との間に連絡航路ができ、1923年には作家の宮沢賢治が大泊に上陸。鉄道で南樺太を旅し、その時に『銀河鉄道の旅』の着想を得ました。

第二次世界大戦後、旧ソ連軍は南樺太を占領し、大泊は再びコルサコフへと改称。その後長らく軍港として外国人の訪問が禁止されました。

しかし、ソ連崩壊後はサハリンの海の玄関口として再び開放され、現在は稚内との間に季節限定ながらも航路が復活しました。

現在、サハリンの州都はコルサコフから40キロ離れたユジノサハリンスクに置かれ、樺太庁だったサハリン州立郷土博物館、レーニン広場などの観光名所やショッピング・スポットがあります。

一方、コルサコフにも旧北海道拓殖銀行大泊支店跡や垂庭神社跡など南樺太時代の遺構が残されており、宮沢賢治が訪れた当時の名残を求めて散策するのも楽しい時間の過ごし方です。



① 旧北海道拓殖銀行大泊支店跡

コルサコフが大泊と呼ばれていた日本統治時代に建てられました。日本が治めていた南樺太の政治の中心は樺太庁の置かれていた豊原（いまのユジノサハリンスク）でしたが、商業の中心地は大泊で、この一帯には銀行のほか、宮沢賢治も訪れた王子製紙の工場や漁業事務所が建てられていました。

旧拓銀の建物は重厚な石造りで、当時の大泊の繁栄をしのばせますが、現在は封鎖されており、内部を見学することはできません。この建物のすぐそばには2001年につくられた「稚内公園」があり、市民の憩いの場となっています。

② 展望台

現地では望郷公園と呼ばれる丘の上にある展望台で、ここからコルサコフ港や宗谷海峡を一望することができます。アニワ湾に細長く突き出したふ頭には、稚内とコルサコフを結ぶ日本のフェリーが発着しますが、戦前の稚内航路の連絡船もこのふ頭を使っていました。

丘の上に建つモニュメントは「朝鮮人望

郷の丘碑」で、日本統治時代にさまざまな事情で南樺太にやってきて、その後、帰国できなかった朝鮮人の子孫が故郷をしのんで建てたものです。

③ コルサコフ歴史・郷土博物館

コルサコフ市内にある小さな博物館ですが、この地の歴史や自然を学ぶことができます。日本が統治していた大泊時代の資料も展示されており、大泊の地図や当時の写真、そしてお皿やとっくりなど、ここで暮らしていた日本人の息づかいが聞こえてきそうな生活用品に、興味を抱く人も多はず。

また、19世紀末にコルサコフに滞在した作家チェーホフに関する展示もあり、日本語の書籍もいくつか置かれています。ちなみにチェーホフはここから日本に渡ろうとしましたが、果たせませんでした。

④ レーニン広場

旧北海道拓殖銀行大泊支店の建物からコルサコフのメインストリート・ソビエツカヤ通りをまっすぐ進んでいくと市役所があ



りますが、その前にレーニン像が立っています。ここがかつてソ連の支配下にあったことを物語るモニュメントです。ユジノサハリンスクのレーニン像は駅前の広場に立っており、コルサコフのそれよりも大型で、観光客の記念撮影スポットになっています。

ちなみにユジノサハリンスクとコルサコフには鉄道が通っていますが、本数も少なく、観光客には非常に利用しづらい交通機関です。

⑤ 自由市場

ソビエツカヤ通りに面した稚内公園の近くで開かれています。ここはかつて露店が並んでいましたが、現在はちょっとした屋根付きショッピングモールのように、雨でも心配いりません。プレハブに入っている商店には色とりどりの野菜や果物、肉類やお菓子などが所狭しと並び、コルサコフ市民の台所となっていることをうかがわせます。また、売り手や買い物客にも東洋系の顔立ちの人たちが見られますが、その多くは南樺太時代に渡航してきた朝鮮人の子孫です。サハリンには朝鮮系ロシア人も多く暮らしています。

足を延ばして



⑥ サハリン州立郷土史博物館

ユジノサハリンスクにあります。日本統治時代の1937年に樺太庁博物館として建設され、現在も博物館として利用されています。日ソ国境標石は必見です。



⑦ ガガーリン文化公園

日本統治時代には豊原公園と呼ばれましたが、ソ連時代の1961年、人類初の地球一周宇宙旅行を達成したガガーリンにちなんで今の名前となりました。観覧車や池の周りを走る子

供鉄道など、市民の憩いの場です。

港までの所要時間

コルサコフ駅より

■ 車で約5分



展望台から港を望む

コルサコフ おすすめグルメガイド

現在はロシアのサハリン州にあるということで、グルメもショッピングもロシア風のものに。お土産はユジノサハリンスクにある「ゲルメス」などのショップで買うことができます。また、ピロシキやキャビアなどは、手軽に口にすることができるロシア料理です。

ピロシキ

ロシアの軽食といえば、まず思い浮かぶのがピロシキ。パン生地やパイ生地の中にいろいろな具材を入れて焼くロシア風パイです。ユジノサハリンスクやコルサコフの自由市場や屋台などで売られており、手軽に味わうことができるロシアン・フードといえます。このほか、シベリア風水餃子のペリメーニなどもオススメです。

キャビア

ロシア土産の王様といえばキャビアを挙げる人も多いはず。チョウザメの卵の塩漬けを指し、ロシアでは「チョールナヤ・イクラ（黒い魚卵）」と呼ばれています。お土産店だけでなく、スーパーマーケットなどでも買えますが、ロシアでも貴重な食べ物のため、持ち出しは250グラムまでという制限があるので、ご注意ください。

コルサコフ おすすめお土産ガイド

マトリョーシカ

ロシアを代表する民芸品といえばマトリョーシカ！日本のこけしにも似ていますが、その中からどんどん小さな別の人形が出てくるのが特徴。そのバリエーションはロシア女性とか、ソ連やロシアの歴代の指導者などさまざま、見ていただけでも楽しくなります。ユジノサハリンスクでは「ゲルメス」などで買うことができます。

